

唐丹文芸

「やちぐわ」詠草

唐丹短歌会

親しかり叔母の訃報におどろけりなぜ死はかくも身近にあるや
おきな草摘みし記憶の残る原家建ち並ぶ集落となり

大津 秀子

波しぶきまともに浴びて若布刈る夫との日ありき今に恋しむ
歩きたい!! 必ず歩くと念じつつ今日の日も亦リハビリはげむ

川原 セイ

根雪^{ねゆき}畑春を告げても音もなく厚き布団に眠る大根
義経の東下りに重ねみる凜凜し姿に歴史^か反みたし

中嶋 多喜子

初日の出籠める雲より溢れいで唐丹湾ごと赤々と照る
とびっきり気高く咲きて君子蘭春待ち人の窓辺寿ぐ

磯崎 彬

強風の去りし朝に春雪の白きにこぼる松毬^{かき}一つ
手を入れる事なきままに春迎ふ角ぐむ水仙日溜りありて

環 あき

やわやわと日射しぬくとき今日寒九しのび足にて春近きかも
三月を待ちたる如くふる雪のさを超えざれば春来ぬ三陸

須具 美佐子

きさらぎの海に輪をなす海鳥の逆白波に浮き沈みおり
未枯る野の裏山に咲く寒椿の強く生きよとさとされいたり

上野 ウタ子

糖尿を患ひ美容師廃業の叔母の柩が美容室より出づ
てきばきと手際よろしく葬儀屋は黄泉路に送る仕度を終えぬ

高橋 昌子

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-2174番(盛岩寺)